付属資料－８　県民フォーラムの実施

１．フォーラムの案内（チラシ）

◆ 第9回県民フォーラムのお知らせ ◆

みんなで考えよう　普天間飛行場跡地利用の全体イメージ

－「普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ」の役割と内容 －

開催日時・場所

- 平成２５年３月１０日（日）
- 14：00～16：40　（13：00 開場）
- 沖縄コンベンションセンター　会議場　A1

（※駐車場に限りがありますので、できるだけ公共交通機関を利用してご来場ください）

入場は、無料です。

◆ 県民フォーラムのプログラム ◆

13:00	開場		
14:00	主催者挨拶		
14:10	取組の経緯について（報告）		沖縄県・宜野湾市
14:20	基調講演		
	テーマ	**「普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ」（委員会案）について**	
	講師	岸井　隆幸	（日本大学理工学部教授）
15:00	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	（休憩）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
15:10	パネルディスカッション		
	コーディネーター	池田　孝之	（琉球大学名誉教授）
	パネリスト	岸井　隆幸	（日本大学理工学部教授）
		稲田　純一	（株式会社ウイン代表取締役）
		小野　尋子	（琉球大学工学部助教）
		新垣　義夫	（普天満宮宮司）
		又吉　信一	（宜野湾市軍用地等地主会会長）
16:25	フロアーとの意見交換		
16:40	終了		

■主　　催　沖縄県 ・宜野湾市
■後　　援　内閣府沖縄総合事務局、沖縄県商工会議所連合会、沖縄県商工会連合会、
（財）沖縄観光コンベンションビューロー、（社）沖縄県建築士会、沖縄県技術士会、
宜野湾市商工会、宜野湾市軍用地等地主会
■企　　画　共同企業体／（一財）都市みらい推進機構、玉野総合コンサルタント（株）沖縄事務所、
（株）日本都市総合研究所、（株）群計画
■お問い合わせ　沖縄県企画部企画調整課（担当　塩川　電話　098-866-2108）
宜野湾市基地政策部基地跡地対策課（担当　仲村、渡嘉敷　電話　098-893-4401）

◆ 県民フォーラムの開催について ◆

沖縄県と宜野湾市は共同で「普天間飛行場跡地利用基本方針」（平成 18 年２月）と「普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行動計画」（平成 19 年５月）を策定し、これらにもとづき県市の共同調査や文化財調査、市による自然環境調査、関係者との合意形成に向けた取組を進めてきました。

今年度はこれまでの検討成果をとりまとめ、跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ」（委員会案）を提言いただき、今後、県と市で中間取りまとめを策定することとしております。

普天間飛行場の跡地利用については、毎年１回、様々なテーマを設けて県民フォーラムを開催し、県民意向の醸成や計画への反映に努めており、９回目にあたる今回は、「みんなで考えよう　普天間飛行場跡地利用の全体イメージ」をテーマに、中間取りまとめの役割と内容をご説明し、跡地利用計画策定に向けて県民･市民が共に考える「場」として県民フォーラムを開催します。

◆ 講師及びパネリストのプロフィール ◆

● 岸井　隆幸　氏（基調講演講師・パネリスト）

日本大学理工学部土木工学科教授　（前）社団法人日本都市計画学会会長　工学博士　建設省を経て現職　東京都景観審議会会長等公職多数。（普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ検討委員会委員長）

● 池田　孝之　氏（コーディネーター）

琉球大学名誉教授　一般財団法人沖縄美ら島財団理事長　工学博士、琉球大学工学部環境建設工学科教授、沖縄振興審議会総合部会専門委員等公職多数。（普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ検討委員会副委員長）

● 稲田　純一　氏（パネリスト）

株式会社ウイン代表取締役　シンガポール国家開発省国立公園庁において計画開発部長としてガーデンシティの国づくりに関わる　2009 年中国国際園林花卉博覧会総設計士を務めるなど、日本・アジアで活躍中。

● 小野　尋子　氏（パネリスト）

琉球大学工学部環境建設工学科助教　学術博士　川崎市役所総合企画局総合政策課題専門調査員等を経て現職（沖縄の新たな発展につなげる大規模基地跡地利用計画提案コンペ優秀賞受賞者）

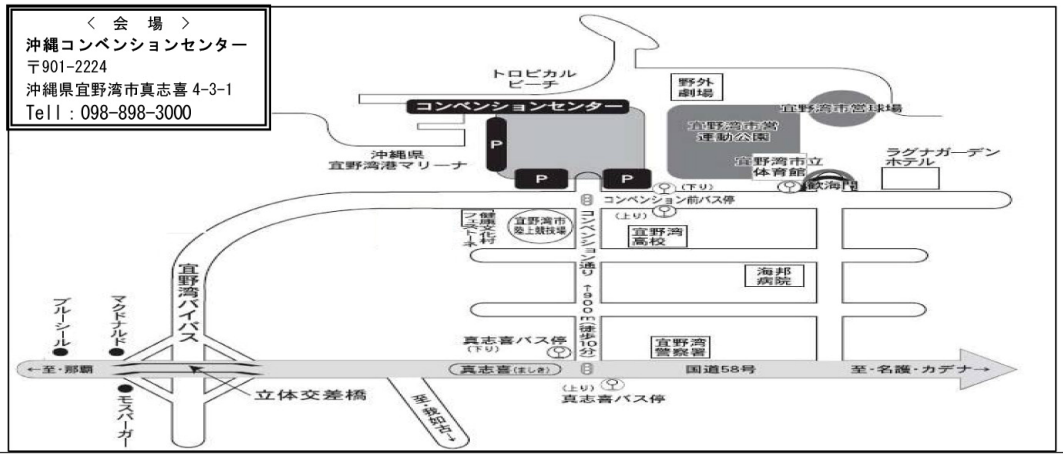
● 新垣　義夫　氏（パネリスト）

普天満宮宮司　宮司職の傍ら、洞穴学、民俗学に造詣が深く、洞穴探検等にも活躍　宜野湾市博物館協議会会長、宜野湾市文化財保護審議会委員、宜野湾市自然保護環境調査検討委員等公職多数。

● 又吉　信一　氏（パネリスト）

宜野湾市軍用地等地主会会長　有限会社エム･エス代表者、普天間飛行場跡地利用計画策定審議委員会委員、関係地権者等の意向醸成･活動推進調査検討委員会委員。

〈 会　場 〉
沖縄コンベンションセンター
〒901-2224
沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1
Tell：098-898-3000



２．基調講演・パネルディスカッションの概要

１）基調講演（岸井隆幸氏）

テーマ「普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ」(委員会案)について

① はじめに

・　今回、委員会としての取りまとめができ、県民の皆さまからご意見をいただいた上で行政としての判断に進んでいくと伺っている。本日は委員会案がどういった内容・考え方でつくられたかをご紹介したい。

・　最初に、計画をつくる段階で気にしたことを紹介し、その後に委員会案の中身を紹介する。

② 計画づくりの留意点

・　この地域の計画づくりにあたっては、土地の特殊性を踏まえたまちづくりが求められる。

一つは「480ｈａを超える非常に大規模な土地」であることを理解しなければいけない。那覇新都心の倍以上の面積で、土地の整備を実現しなければいけない。

・　飛行場の中を見ると、特に西側の斜面に緑地が広がっている。また、歴史的な文化財をかなり包蔵していることが分かってきた。詳細はこれからであるが、この取り扱いに十分注意する必要がある。

・　地下水が東から西に流れ、湿地周辺でお盆のように水がたまっており、これが海水を抑え込んでいる。したがって跡地開発の際には、地下水脈を切ると周辺地域に大きな影響を及ぼす可能性があることを注意しなければならない。

・　土地は殆どが民有地であり、3,000 人以上の方々がその土地を分割して持っている。その分割された土地は、1,000 ㎡前後の規模が多いため、どのようにして使えるようにするかが大きな課題である。さらに、その土地は現在も収入を生んでいるため、今後の所有者の生活をどう考えるかがポイントになる。希望を伺うと、「土地をそのまま保有していたい」方が多いことも分かってきた。

土地を持ちながら新しいまちづくりをどうやって実現するか。各敷地が大きくない中で、新しい機能をよんでくるためには少し知恵が必要だろう。

・　同時に飛行場の中だけが整備されれば良いわけではない。周辺に広がっているまちにも問題が散在しており、これを解決するための開発でなければいけない。まわりの土地の困っている部分を中心部の開発が良くしていくシナリオが必ずいる。

・　では何をこの土地にもってくるか。日本全体が人口減少社会に入っており、沖縄においても住宅需要は長い目で見ると収まりかけている。今後は需要の増加も大きくないことを前提にしないといけない。従来と同じような開発をやれば、誰かが土地を買ってくれる、住宅を買ってくれるというように安易に考えることはできない。

・　以上のような土地が持っている条件、抱えている属性を理解しながら計画をねる必要がある。ただし、飛行場の中の土地について情報を全て手にしているわけではない。特に滑走路部分は手がついていない。地下にどのような石灰岩が広がっているのか、空地が空いているのか、文化財があるのかなど、現状では正直分かっていない。不確定な部分があることを前提にしながら、どのように計画をつくっていくか。

③　「全体計画の中間取りまとめ」の位置づけ

・　今回は「全体計画の中間取りまとめ」という位置づけになっている。「中間取りまとめ」という意味は、最終ではないということ、あるいは進化をしていくということ。これまでの各種の調査成果を一旦束ね、整合性をとり、どのようなことが分かっていて、どこまでできそうなのかを整理をした。

・　その結果、開発に向かって皆さんとの合意形成を図り、3,000 人の地権者の方々が同じ方向を向いて議論を進めなければいけない。

・　加えて住宅需要が多く見込めない中で、480ha の土地を使うためには跡地を上手く使ってくれる人を探す必要がある。そのためには今跡地がどういう状況なのか、どんなまちになっていきそうかを発信する必要がある。これも今回の取りまとめの一つの役割である。

・　これから計画の条件がはっきりしてくると、それを踏まえて、一つ一つ中身を深めていく必要がある。その大きな骨格を今回示した。

・　しかしながら、現段階で得られている情報は全てではない。したがって中間段階の計画としか言いようがない。

・　新しく飛行場の中の情報がでてくると変えざるを得ないかもしれない。また、これだけ大規模な開発で、日本全体が大きく動いている、国際社会が大きく動いている時代であるため次の時代に何が起きるかを全部読み切れている訳ではない。社会の動きを見ながら、新しい情報をつかまえながら、この計画は更新し、動き、ダイナミックにやると考えている。一旦決めたからこのまま突っ走るという訳ではない。逆に言うと、様々な変化を如何にして受け止めるかを十分に考えたプランでなければいけないと考えている。

④　「全体計画の中間取りまとめ」（委員会案）の概要

・　最初に、『目的や方向性』についてお示しする。跡地利用は及ぼす影響によって差があり、どの段階においても大変重要である。

　沖縄県にとって、真ん中に新しく生まれる 480ha の土地は、将来の沖縄を変えていくことに対して大変意味がある。宜野湾市の立場からは、市が抱えている課題に対して跡地が一定の効果を与えるべきで、市の新しい都市像に資する開発であるべき。加えて地権者の方々の土地活用ができなくてはいけない。

　このためには、量ではなく質を重視して新しい需要を開拓しなければならない。これが沖縄全体の振興に資するようなものであるべきと考えた。また、沖縄が大きく発展するためには相手は世界である。既に企業は国境を越えて大きな活動をしている。沖縄が世界に誇れる優れた環境を提供することは、企業をつかまえるためにも大変大事になる。加えて土地を提供できるシステムが必要ではないか。企業が大規模な土地を使いたいといった時に、1000㎡くらいの土地がバラバラとあるのでそれを自分で整理してくださいということでは競争に勝てないだろう。計画的に用地を供給する仕組みもなければいけないのではないか。こんなことを考えながら計画の中身に入っていきたい。

・　『個別の方針』については、絵に結びついていく部分を最初に紹介し、次に絵を背景にした課題を説明したい。

・　一つは『環境』というキーワードである。これからは質の時代である。これだけ大きな緑や歴史がある地域で、何よりも亜熱帯にある土地である。その土地が沖縄の振興の舞台をつくっていく。環境、緑というキーワードを大事にしたい。

・　これからでてくる写真はあくまで参考である。できるだけ似たようなものを探して並べて

いるが、これをこうつくるというイメージではない。この事例を超えなければいけない。

・　これはキャンベラというオーストラリアの首都で、国際コンペで骨格を決め、砂漠の中に新しいまちをつくった。1900 年代最初の頃の緑に対する考え方でつくられており、我々はもっと違うものを 21 世紀に向かって描いていく必要がある。

　実際、基地の中には多くの樹林地があり、これを大切にしながら新しい都市空間を整備する必要があるということで、広域の公園が計画されている。この公園、まちと接近しているが区域的に分かれているスタイル、より融合しているスタイルもあるだろう。新しい緑とまちの関係をつくっていく必要がある。

　水や過去の街道などの歴史も大切にしなければならない。新しい 21 世紀の都市開発にとって、歴史をどう考えるかは大きな課題である。世界に訴えかけるものがあっても良い。

　これらを兼ね合わせて緑のネットワークを考えた。まとまりのある緑地と地域全体をつないでいくネットワークの緑地、さらには並松街道といった昔の歴史の風景、周辺市街地の方々にとっても嬉しい緑地があるべきではないかと。この緑地のパターンは、地権者等からのご意見と専門家による検討を踏まえ、西側の大規模な緑地とそれにつながるネットワーク型の配置となっている。

・　この緑地・環境系をベースに、沖縄全体や宜野湾市にとって価値のあるまちにするためには、『交通網』が必要になる。広域交通は県が中部縦貫道路や宜野湾横断道路、鉄軌道を含めた新しい公共交通軸について検討を行っており、こうしたものを受けとめている。さらに、宜野湾のまちづくり・都市計画に資する道路網の整備に向けて、周辺部も含めて道路のネットワークを形成している。交通網としては、真ん中に新しい公共交通軸と縦貫道路、横断道路が必要であり、それを保管するように幹線道路が従来の道路に結びついている。

・　以上の緑地や交通の軸があり、次に、土地を何に使うのか。何に使うといっても今すぐに〇〇企業が来ますと言える段階ではない。幾つか可能性あるものをお示ししたいと思う。

　一つは振興拠点ということで、国内外から人々を集めて沖縄の産業振興を先導する地域を形成する。この地域は、地域の魅力を世界に訴えることが必要と思う。緑の中での先端的な取組としては、世界的にはリサーチパークが幾つか見受けられる。振興拠点では、研究所の他にも次の時代の基幹産業を受けとめることもあり得るだろう。

　跡地は宜野湾市の中心にあるため、都市としての中心性を提供することも必要だろう。新しい宜野湾としての複合的な広域拠点が交通の軸のところに生まれる。それが地域の人々にサービスを提供する。

　居住については、緑の中にゆったり住むという住まい方もあるし、土地の値段を考えるともう少し高層の集合住宅などができるかもしれない。何れにしても「住む」という機能を持ったまちにする。

　コンベンション・海へのオーシャンビュー・緑など世界に訴えられる資源がある西側に「振興拠点ゾーン」、交通ネットワークを考えると真ん中に「都市拠点ゾーン」、従来の住宅地を更に良くし、それが拡がるイメージで東側に「居住のゾーン」を配置している。

・　世界中で、これからは「環境」という問題意識が持たれており、低炭素や資源循環、エネルギー問題など、世界に誇れる新しい都市開発をここで実現するべきと考える。日本の企業自ら普天間で一緒に考えてもらえれば良いと思う。環境にやさしく住む、環境と上手くつきあっていくライフスタイルを備えていなければ、世界の中では、先端を行く人達は来ない。自分たちが住むならば、そういう場所に住みたいと思う時代になりかけている。

・　一方で地下の部分は、どこに穴があいているか把握できていないため詳細に調査しなけれ

ばならない。その中には観光的な資源になりそうなものもあるだろうが、安全性も考えなければいけない。これらは今後の課題で、さらに突き詰めて絵を立体的にしていく必要がある。

- 場所の設え、装置を整備した後は、誰に、どうやって使ってもらうか。使ってもらえた場合には土地をどう提供するのか。個々の方々の小さな宅地を、市場にだしても使い勝手が悪い。ある一定の規模でまとまれば、使いますということはあり得るだろう。そのためにも地権者の皆さまと協働して、生活設計にそった方法で、土地を使いたい人達などに魅力的に見せる必要がある。機能誘致のための情報発信も進めなければいけない。関心がある人に対してはオーダーメードでも対応するなどが必要だろう。
- こうした土地のやり取りは地区内だけに止まるものではない。周辺の方々にとってのまちづくりもはじまり、跡地の土地を上手く使う、あるいはフリンジ部分では連携して物事を考えていく。
- これが現段階で考えられる緑地、道路、土地利用などを一枚に束ねた絵である。まだポンチ絵と思われるかもしれないが、個別には先の議論を始めている。例えば道路はどういう線形で、どういう勾配ですりつくかなどの検討を始めている。さらに地区内の情報を早く手に入れることにより、形がより具体的になる。
- この「中間取りまとめ」は、こうした骨格でできあがっており、未だかなり流動的にダイナミックに動くことを前提にした絵である。ただし、幹線道路は真ん中に入れる、西側のオーシャンビューのところは新しい振興拠点にする、大規模な公園を整備するということは提案をしてきた。今後は、これに対するご批判を頂き、さらにブラッシュアップして実現性の課題をつめていく必要がある。目標感を持ってそれらを追求し、実現するためにどういう行程を考えるかを整理する必要がある。地区内の分からない部分については、今後とも調査を早くしたい。そして地権者の方々のご意向も確認しながらこの土地に関心をもってくれる人の数をできるだけ多くしたい。彼らと話し合いをして世界に誇れるまちはどうすればできるのかということも議論していきたい。
- 本日のパネルディスカッション等でも様々なご意見を頂いて、こういったことが具体的にどうすればできるのかというお知恵を頂ければと思っている。

以上

2）パネルディスカッション等

コーディネーター	池田	孝之氏（琉球大学名誉教授）
パネリスト	岸井	隆幸氏（日本大学理工学部教授）
	稲田	純一氏（株式会社ウイン代表取締役）
	小野	尋子氏（琉球大学工学部助教）
	新垣	義夫氏（普天満宮宮司）
	又吉	信一氏（宜野湾市軍用地等地主会会長）

① 第１ラウンド【「全体計画の中間取りまとめ」（委員会）を聞いての感想】

（新垣氏）

- 地域の地質・地形をお話したい。普天間飛行場の上部は琉球石灰岩で、下部がクチャという粘土層である。戦前の宜野湾は那覇の水源地であり、水が豊富なところである。雨水が飛行場東側で地下に入り、大山地域付近で水盆や湧泉となっている。最も大きい湧水がフルチンガーである。また、入口の開いている洞窟は 145 箇所あると考えている。
- 次に宜野湾の歴史特性について話したい。基地の中には、かつて神山・宜野湾・新城集落があった。そこには生活に関係するウタキ、カーなどがあった。
- これらの自然・歴史特性を復元するのか、活用するのかを考える必要がある。

（稲田氏）

- 世界の都市は、リソースを最大限に活かして都市間競争に勝つことを目指している。戦略の中で普天間が何を選択するかが重要であり、この場所にある歴史・文化・自然などの資源がオンリーワンの価値になると思う。
- シンガポールは、人間の労働力・知力だけが資源であった。それでリー・クアンユーは住みにくい熱帯の環境を『快適にする』ことを目指し「ガーデンシティ」に取り組んだ。シンガポールは、無い無いづくしの中から 50 年で世界トップレベルの都市になった。的確な方向性を決めた上で５年ごとに国のマスタープランを見直すなど、フレキシブルに時代の変化に対応してきた。
- 亜熱帯・熱帯の都市計画においては、植物のデザインが極めて重要である。これは美しい緑ではなく、人間の基本的な住環境にとっての植物である。昨年の国連の国際会議・リオ 20 で自然資本宣言を採択した。ここで「自然は経済的に価値がある」ことが明確にされた。普天間にある自然・歴史・文化は必ず経済価値に結びつくものだと信じている。それが都市間競争で大事な魅力づくりのベースになる。
- 都市は如何に経営をするかという観点がないとサステイナブルにならない。日本の中で沖縄は沖縄である。地球規模での沖縄の位置での都市づくりを意識していただきたい。

（小野氏）

- 委員会案の検討成果を発展的にとらえていく際の課題という面で話題提供したい。
- 各基地の開発方針を定めるために、広域的に見た土地利用調整を機能させることが第一と考える。機能配置の調整は可能であるが、削減を含めた調整はデータ的根拠がないと基礎自治体にお願いすることができない。普天間は高い居住ポテンシャルがあり、非有機産業核を中心としたホワイト産業核を形成することが県土構造的には波及効果が高い。
- 機能導入は、県外だけではなく県内の企業にも目を向けて頂きたい。沖縄２１世紀ビジョンや一括交付金の事業メニューを県民に広く周知し、県内で具現化しつつある産業シーズを

どう空間に落とし込むのかについての合意形成が必要と考える。

・　低炭素時代に対応したエネルギー施策の導入は、単独事業ではなく、共済や振興策と連動した仕組みとして制度設計してほしい。所得の低い沖縄では、多元的な社会保障システムがあることが、今後重要なセーフティネットになる。ハード施策とソフト施策をどう連携させるかを県民や地権者を含めて知恵を集結していくことが重要と考える。

・　地下水涵養では、地下水脈上部の保全だけでは不十分であり、ドイツに習い、民有地の中で「被覆度」を設定する事を提案する。温熱環境緩和機能も見込める。

・　研究・文教機能では、高校の視点が必要と考える。例えば基地に隣接する普天間高校を移設し、そこを緑地等にすることで密集の改善ができる。また、鉄軌道の整備により片道３０分強で南は糸満、北はうるま市から通学できるようになると自宅学生が飛躍的に増える。そのため有力進学校を誘致して欲しい。研究施設だけでなく、地元の生活に密着した教育施設が必要だという意見が若者達からよせられた。

（又吉氏）

・　「全体計画の中間取りまとめ」（委員会案）に対する地主の具体的議論は未だこれからであるが、委員会案は概ね地主会から賛同を得ているものと実感している。

・　平成 23 年度に私どもは普天間飛行場跡地に大規模な国営公園（（仮称）普天間公園）を誘致することを決定し、沖縄県と宜野湾市に要請してきた。国営公園を整備することにより、地主はもとより市民・県民の豊かな生活や新たな雇用が生まれ、魅力あるまちづくりにつながると思うからである。

・　配置方針図は今後の取組を踏まえて更新されることになっているが、地主の中には、「この通りできたらいいな。」、「実現するには課題があまりにも多すぎる。果たしてどうすれば良いのか。」という声があるのも事実である。

・　返還時期が何時になるかが具体化していないことや基地内への立ち入り調査も未だこれからなど、私たちは実現に向けて超えなければならないハードルが数多くある。

・　「中間取りまとめ」を契機に、地主や市民、県民の皆さまと議論していきながら、我々の子や孫に誇れる夢のあるまちづくりをしていきたいと考えている。

（池田氏）

・　各パネラーの発言を踏まえて何か感想等はあるか。

（岸井氏）

・　この地域の自然・文化・歴史の資産を大事にし、土地の個性を活かした世界を睨んだ新しい都市開発をすることは重要と思う。

・　この 10～15 年間のシンガポールの変化は驚異的で、コンベンション開催地でシンガポールはアジアの中で断トツの勢いである。世界的なアジアに向かっている力をシンガポールや中国が受けとめようとしており、我々もアジアとともに成長していくという戦略が必要だと思う。ここで先手を打って何か考えていくべき。

・　個人的な感想であるが、シンガポールと日本の違いを考えると、シンガポールは都市国家で生きるしかないが、日本は実経済を抱えているので、これを大切にした新しいコンベンションがあるのではないかと思う。普天間で今後展開される土地利用は、コンベンションとの連携を持たなければいけない。その時にシンガポールと同じではなく、裏にある実経済とともにやるべきで、それは沖縄の産業の振興にもつながる良い循環になると良い。

（池田氏）

・　沖縄で産業振興を含めて土地利用等をどう考えたら良いか。

（稲田氏）

・　シンガポールは考え抜いた中で都市国家戦略「ガーデンシティ」を選んだ。彼らは一つの考えに固執せずに、国際的な動きに敏感に反応する。シンガポールにはリソースがなく、当時は切迫した金融事情もあった。沖縄には深い歴史・文化や豊かな自然があるので、それらを活かしてオンリーワンのまちづくりをすることにつきる。

（新垣氏）

・　洞窟をどう残すか、どう活用するかを考えても良い。洞窟と人間との関わりは、遺跡、洞窟信仰、泉、墓、防空壕、貯蔵庫、レストラン、温泉などがある。

・　水の問題で、将来的に大山田芋畑がなくなりそうで心配である。現在 14ha 使用しており、農家は 50 名。生産量は 200 トン程度。田芋は宜野湾の特産でもある。

②　第２ラウンド【今後の計画内容の具体化に向けて】

（新垣氏）

・　NPO 普天間門前まちづくり期成会で、普天満参詣道を地域の活性化につなげられないかと現在考えている。

・　新城・神山・宜野湾集落は、歴史的背景をもとに復元できないか。そのような場で綱引きなどもできないかと思っている。

・　洞窟の有効活用を含めて考えた方がよいだろう。

（小野氏）

・　「広域土地利用調整の課題」は非常に重要と思っている。委員会案に開発の方針を入れていくには、基地だけではなく広域的にどういうことができるかを明確にしなければならない。広域連携はやりやすいが、削減をともなう広域調整は非常に難しい側面がある。

・　「エネルギー系の施策と社会保障の連動」は、何のためにエネルギー施策に取り組むかを一石二鳥で考え、沖縄の低所得や雇用問題の改善方法について様々な方の知恵を頂きながら、上手いやり方をつくって行けたらと思う。

・　2030 年までに基地が返還されないと人口減少に入るので、どんな地獄絵図になるか。返還がどれくらいの時期になるかで、将来の方向性が変わっていくだろう。

（池田氏）

・　「土地利用を含めた広域調整」はどのような仕組みでやっていけば良いか。県が中心か、市町村でチームをつくった方がよいか。

（小野氏）

・　現在取り組まれている県・市・地権者の体制は非常に良いと思うが、実際にはデータを積みあげて空き地や低未利用地の発生状況等を踏まえながらポテンシャルが高いところと低いところを仕分けし、都市をたたんでいくための住み替え助成制度の仕組みを県単位の条例で取り組むなどの検討が必要だろう。

（池田氏）

・　普天間では「環境未来都市」等の総合的な取組を目指してはどうかという意見があるが、これについてどう考えるか。

（小野氏）

・　ドイツ・フライブルクのまちづくりでは、エネルギー系は安定した長期のフルタイム雇用を生んでいる。その仕組みの中に、地域の中でお金がまわる仕組みを如何に入れ、組み合わせることが重要と考える。

（稲田氏）

・　シンガポールでも行政組織での縦割りや連携の難しさは存在する。ガーデンシティの国づくりは、縦割りではできないので、政府の中に、ガーデンシティアクションコミッティ（GCAC）を設けた。これは、住宅局、排水局、建設局などの責任者が集まり、横断的に関係性を調整する実行委員会である。GCAC は政府のリーダーシップのもとで調整されるので、行政マンが苦しまずに必然的に調整される。普天間でも GCAC のような仕組みを検討すると良い。

・　地主会の方々の合意により広大な公園・緑地を計画していることに尊敬する。地権者の方々の合意を力にして行政の知恵、市長・知事のリーダーシップで突き進んでほしい。

・　都市計画でも最初に「環境」に取り組むことがはじまった。世界中ではアーバン・ランドスケープが最先端の技法となっている。これは科学をランドスケープの計画デザインに持ち込むもので、普天間でも自然のリソースをサイエンスで的確に判断していただきたい。

・　シンガポールは人間が資源なので、学校を含めて将来を担う子供の空間の都市計画デザインを大切にしている。子供には遊び学ぶ権利があり、我々大人は子供の空間を整備することに、もっと配慮しなければならない。ぜひ今回の計画の中で子供の都市計画・都市空間を考えていただきたい。

・　建設を進めるなかでは様々なことが決まらなかったり、建設が頓挫することも多々生じる。その時にシンガポールでは、物事が決まるまでの暫定的な期間にその場所を緑化し緑地として暫定的に有効利用する。この都市計画手法を土地のＩｎｔｅｒｉｍ　Ｕｓｅ（インテリムユース）と命名している。今回もこの手法を取り入れ、時間を無駄にしないで、むしろ時を土地の暫定的な資産に有効に変換し、尚且つ緑によりその間の都市環境のコントロールを行うべきである。

・　シンガポールは複合民族なので、サイネージ（案内板）も様々な方に分かりやすくなっている。はじめて来る人に分かりやすい都市の情報提供が重要であり、沖縄でも現段階から周辺を含めてのサイネージ計画を改善することにより、トータルに質の高い今後の計画を実現するべきである。

（又吉氏）

・　事業の一番のキーポイントは、地権者の合意形成だと思う。「跡地利用特措法」では国の責任が明記され、土地の先行取得制度の創設や給付金支給の見直しなど、地主がより安心して跡地利用に取り組むことができる環境になった。「跡地利用特措法」や土地の先行取得等の制度が最大限に活用され、跡地利用への取組が円滑に進むことを期待するとともに、地主としても気を引き締めて跡地利用の取組を進めていきたい。

・　まちづくりで最も大切なことは、多くの人が共通認識をもち、同じイメージをもって取り組むことと思う。地主の中には、「土地を自分で使いたい人」、「企業に貸したい人」など思いは様々であるが、時間とともに変化していく。現在の地主数は約 3,300 名であるが、この 10 年間で 500 名も増加しており、今後も徐々に増えていく。多くの地主の意向を把握し、まとめていくことは容易なことではなく、より地主に分かりやすい情報提供や対話の工夫が必要と考える。若手の会が行政の支援を受けながら取組を続けており、頼もしい存在になっている。これをさらに次の世代に繋げるとともに、立ち止まることなく引き続き沖縄県や宜野湾市と一緒に取り組んでいきたい。

（岸井氏）

・　個人の見解としてお話したい。地区内には様々な資源があるとは思うが、未だよく分からない部分が多い。したがって早期に立入調査をすることが絶対に必要である。これがあって半歩

前進するが、現在は計画づくりの取り組みが少し見えにくい。県外の方にとっても、何が起きているのか分からないと、その都市に対する興味も湧かない。我々は土地を使ってくれる方を探さないといけない。そういう意味では、今の見えにくさを、もう少し見えやすくすることが大事で、戦略的にやらなければならない。何か動いてなければならない。地区内ができなければ、地区外を先行的に取り組むことも必要である。

・　コンペは県が復帰 40 周年の記念事業として取り組んだ。50 周年の時にどこまでいくか。高い目標をたて自分たちの行程を組むべき。また、日本が強いところで更に沖縄でがんばれるものを考えた時、「健康・医療」は沖縄にとっても魅力的なキーワードだろう。

・　いずれにしても、需要が供給を上回る時代ではなくなってきているが、沖縄の緑は価値があるかもしれないので、今から準備しても良いのではないか。

（池田氏）

・　中間取りまとめにおいて、公共事業が先行するという骨格は浮かび上がっている。一方、土地利用については、沖縄振興を睨んだ産業をどう生み出すか、産業用地がどの程度展開するかなどを今後詰めなければいけない。土地利用を具体化するには今後どうしたら良いか。

・　さらに、大規模公園の整備は地主会も含めて結束しているが、肝心の公園の中身はよく見えない。公園の中で生み出す産業など、公園の積極的な価値についてコメントいただきたい。

（岸井氏）

・　土地を使う人達への関心を高めるために目標感を持ち、動かなければいけない。動いていることが魅力になる。同時に戦略性が必要で、全ての土地利用等が同時にできるのではなく、どこから使うか、どうやって使うかを考えなければいけない。その時に公園との関係は非常に重要になり、公園をどう使うかのファーストステップがあれば次の道が見える可能性がある。

（小野氏）

・　緑地や大規模公園は都市の気温を下げる効果がある。大規模公園が都市の真ん中にできることは都市の資産価値を上げると考えている。また、花の歳時記園がほしい。季節毎の花園があるので年間の利用者も見込める。花のある公園と産業は親和性が高いと考える。

（稲田氏）

・　今後は、まちを育てる、創造するというプロセスがはじまる。まずやれることをやる。シンガポールもそうである。紙に描いた絵の中から、実行する計画を選択し、アクションプラン（実行計画）を決めて必ずやる。これらが重なることで、ある程度のベースができる。常に何かを動かしていることは、かかわる人々の意識を常に活性化させるという意味で大変重要である。

・　シンガポールは、例えばインドネシアから砂を購入し、毎年埋立をして土地を創造整備している。この埋立地では、土地の初期化（草地化）をするために汚泥の地表面への耕運により土地を有機化して自然発生的な草地をまず何よりも早い建設段階で整備する。これで埋立地のホコリや雨による土壌浸食がコントロールでき、使える土地になっていく。普天間でもこのように初期緑化することで土地に価値をつけることをやっていくことが必要ではないか。

③　フロアとの意見交換

（質問者：観光業、男性）

・　普天間飛行場の外側の都市構造が歪んでいる気がする。北部地域は国の北部振興策で様々な事業が展開されているが、宜野湾市は 20 年近くもほったらかしにされている印象がある。国内で一度見ておいた方がよい場所があれば教えて頂きたい。また、田芋畑等の地域資源に対する思いがあれば伺いたい。

（質問者：宜野湾市民、男性）

・　16 年前に普天間返還が決定したが、当時、約 3000 億円の売上げがあり３%という計算をした。それ以上のものをあげないと無理ということになると、県や市だけではやっていけない。国を巻き込まないといけない。調査を早くやらないと、途中で事業が止まったら大変な問題が起きるのではないかと考えている。お知恵があれば伺いたい。

（質問者：読谷村民、男性）

・　沖縄県ではこれまで平和運動が展開されてきた。平和運動をすれば戦争が来ないのか。どうやって平和を維持していくか。武力の基地から平和外交の発信基地としての戦略がうてないか。

（質問者：地権者、男性）

・　「人口ボーナスのある 2030 年までに全ての基地が供用開始にならないと・・・」という話があったが、これはどういうことを意味するか。あと 11 年以内に返還が決定しないと事業が成功しないということか。詳しく説明してほしい。

（又吉氏）

・　普天間飛行場は近い将来に返還されるという仮定で、我々地権者はまちづくりを考えている。普天間飛行場跡地のまちづくりは、地権者や沖縄県、宜野湾市だけでできるものではなく、県民が一体となり多様な人々の知恵を結集して理想のまちづくりを展開したい。
・　私は大山の生まれで田芋の生産農家である。田芋は宜野湾市の唯一の特産品であるため、大山田芋畑は新しい都市農業として残してほしいと考える。

（新垣氏）

・　田芋はどんどん減ってきており、どうにかできないかと思っている。
・　宜野湾市の木の花が「サンダンカ」であるためサンダンカ公園をつくってはどうか。
・　公園は箱庭的ものが中心であるが、密林状態にして生物多様性のあるものにすると緑の価値がでるのではないか。

（小野氏）

・　社会保障・人口問題研究所の将来人口予測によると沖縄県は 2025 年に人口のピークをむかえる。住宅需要のやまは 2030 年頃にやってくると想定しており、それまでに土地が使える状態になっていると、住み替え需要を入れながら自然的土地利用に戻していけるのではないか。これが延びると人口減少社会に入るので、基地跡地をどう活用するかはより難しい課題になると考える。今後とも機会があればお手伝いさせて頂きたい。

（稲田氏）

・　大規模な公園・緑地には維持管理費が発生する。公園的緑と１次・２次林に近づけたプログラム化した緑の階層性を考えないと維持管理のコストが大変になるだろう。
・　国防について、シンガポールではトータルディフェンスをしている。軍隊だけではなく、マラリアにならないための蚊の駆除、東南アジアトップレベルの医療・教育を展開しようとしている。インドネシアの富豪が医療を受けにくるなど、国際交流をすることでシンガポールが存在することの重要性をトータルディフェンスの中で総合的に考えているようである。

（岸井氏）

・　事業運営等の問題が徐々に議論になってくる中で、国の役割等が重要になるとも思うが、税金で全てをやることが面白くなるかというと、必ずしもそうではない。様々な人が知恵を出し合った方が、面白いものが生まれる可能性が高いように思う。今、情報社会なので様々なものを発信できるが、ネットの次にあるのは実空間ではないか。ネットで自分の趣味の世界が広が

っても、最後には実空間で行動したいと思う。そういう場所を早く幾つもつくった方が勝つ。行政はお金や制度のサポートはできるが、こういう面はあまり得意ではない。民間の知恵を出すことが重要と思う。

・　計画としては、プロセスプランニングが大事であり、多くの方にご意見を頂ければ次の道につながると思っている。

（池田氏）

・　本日の議論は以下にまとめられる。

―　普天間の地域特性である水系、自然、洞窟はオンリーワンの個性であり、これらを大切にした跡地利用計画に取り組むことが必要

―　今後は価値の創造に取り組み、歴史的・自然的資源を利活用。利活用には宿道を含めた祭りの行事なども並行して考えることが必要

―　今後の調査にしっかり取り組み、プロセスプランニングを展開
その際、広域調整は大変重要であり、事業主体や国の役割の明確化が必要

―　国、県、市、地権者がスクラムを組むとともに、民の活用を視野に入れて土地利用、特に産業機能を具体化

―　大規模な公園はしっかりやるべき、緑はそれ自体価値がある
さらに、大規模公園や緑地は、周辺の土地利用に大変な価値がある
同時に価値を科学的に明らかにしていくことが重要

―　今後は、危機感・スピード感をもってやっていくことが重要

・　以上をもってまとめとさせて頂きたい。

以上

３．配付資料

１）県民レポート（資料－７参照）

２）アンケート調査票

普天間飛行場の跡地利用に関する県民フォーラム
アンケート票

設問 １

本日の県民フォーラムに参加されて、またパンフレット等をご覧になって、今後の普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ」について、どのようにお感じになりましたか？　当てはまる番号を全てに○印を付けてください。

１．役割や内容について理解できた　　２．役割や内容についてまだ理解できない
３．跡地利用の全体像がイメージできた　４．跡地利用のイメージはまだわかない
５．今後も説明の機会を設けて欲しい　　６．もっとわかり易い資料が欲しい
７．その他（　　）

設問 ２

今後も県民フォーラムを継続的に開催していく場合、普天間飛行場の跡地利用に関してどのようなテーマを取り上げたら良いとお考えですか？
当てはまる番号を全てに○印を付けてください。

１．沖縄、普天間らしい特色ある住宅地づくりとはどのようなものか
２．普天間にはどのような産業や都市機能をもってきたらよいか
３．普天間全体を沖縄らしい魅力的な風景で演出するにはどうしたらよいか
４．跡地整備と並行して周辺市街地を再整備し環境改善するためにはどうするか
５．地球環境や地域環境にやさしい先進的で自立的なライフライン（上下水道・ごみ処理・電力・情報通信施設等）をどのように導入するか
６．公共交通機関（鉄道・バス等）や道路、歩行者通路等をどのように計画するか
７．普天間の貴重な財産である自然環境や文化財をどのように保全、活用するか
８．その他（　　）

設問 ３

その他「フォーラムの感想」や「あなたのお考え」などを自由にお書き下さい。

回答者についてお答え下さい

住所	市町村	職業	1.自営業　2.会社員 3.学生　4.主婦 5.無職　6.その他	年齢	1.10歳代　2.20歳代 3.30歳代　4.40歳代 5.50歳代　6.60歳以上	男・女

回答頂きましたアンケート票は、受付の『アンケート回収箱』に投函して下さい。

４．アンケート調査の概要

１）アンケート回答状況

◆　アンケート回答者は、４８名

第９回県民フォーラムに参加した県民・市民の方々を対象に『県民フォーラムに関するアンケート』を 86 通配布し、約 56%に相当する 48 通の回答を得ることができた。

実施日　：　平成２５年3月１０日（日）
配付数　：　86 通　（参加者に受付で配布）
回収数　：　48 通　（会場にて回収）
回収率　：　55.8%

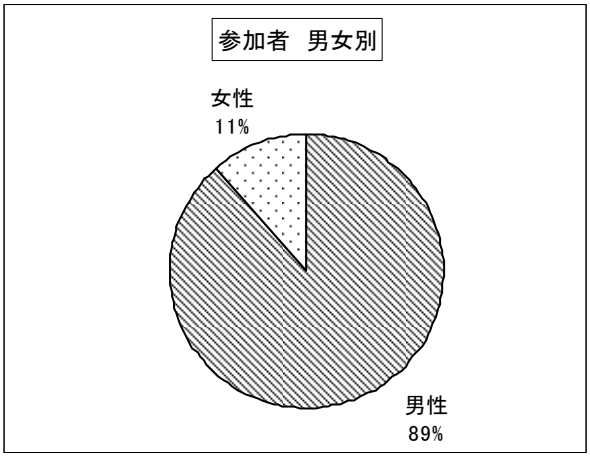
▲会場の風景

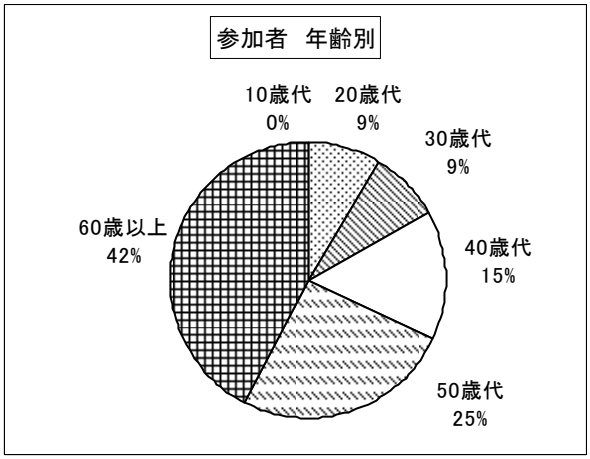
▲パネルディスカッションの様子

◆　回答者の属性は、男性、那覇市、宜野湾市在住が多い

フォーラムへの参加者の多くが「男性」であり、アンケート回答者も 89%が「男性」であった。

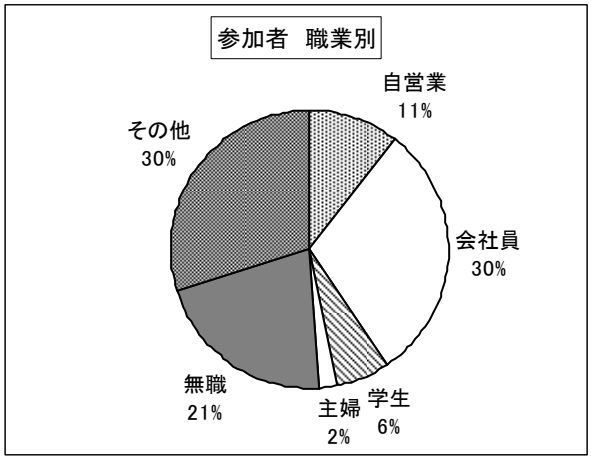
また、年齢別構成を見ると、60 歳以上が 42%と最も多く、50 歳代 25%、40 歳代 15%、30 歳代 9%、20 歳代 9%と、若い世代の参加が少なかった。

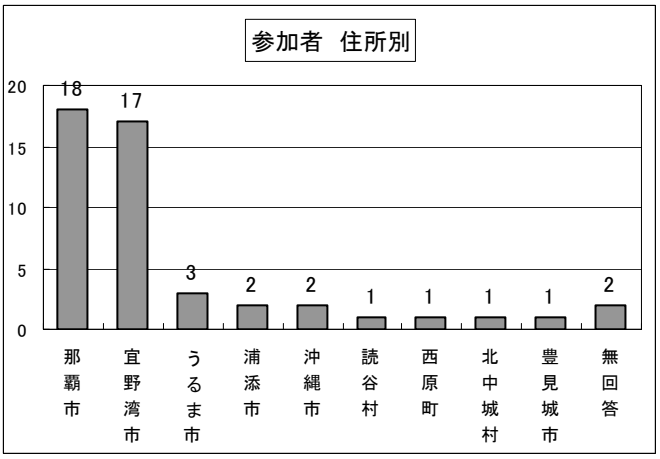




職業別では、会社員、その他が最も多く 30%、自営業が 11%である。

居住する住所別では、フォーラムの開催地でもある宜野湾市民の参加が 17 名、那覇市からの参加が 18 名あった。

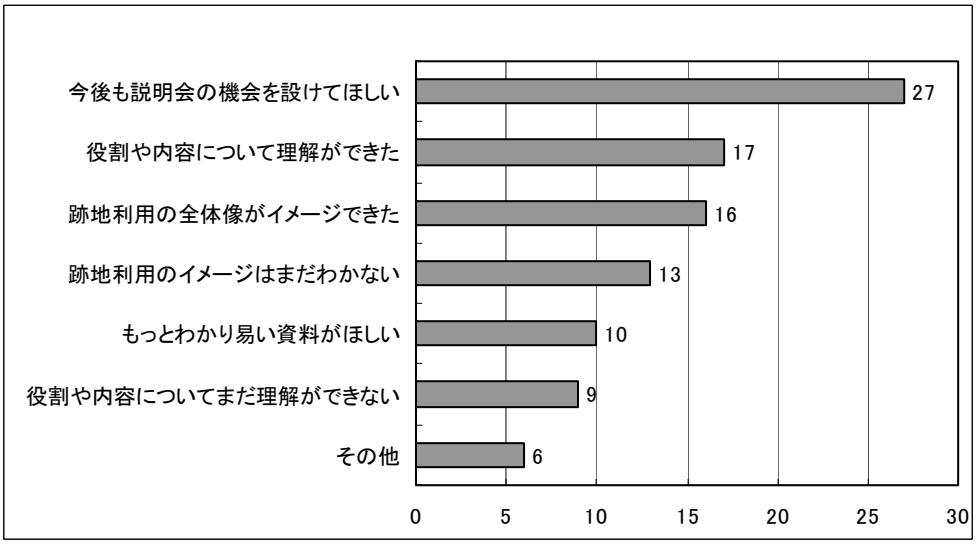




２）普天間飛行場跡地利用に向けた「全体計画の中間取りまとめ」のその役割と内容、跡地利用の全体イメージについての理解・認識

◆　今後も説明会等の実施を要望する声が多く跡地利用に対する意識が高まる

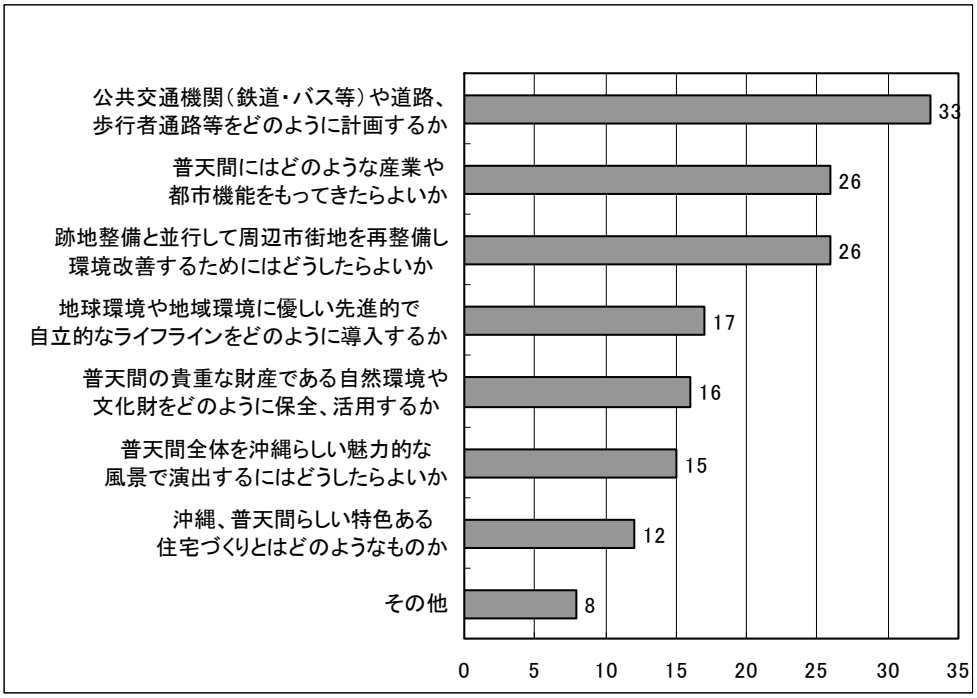
『本日の県民フォーラムに参加されて、またパンフレット等をご覧になって、今後の普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ」について、どのようにお感じになりましたか。当てはまる番号を全てに〇印を付けてください。』という問いに対しては、「今後も説明会の機会を設けてほしい」が 27 件と最も多く、次いで「役割や内容について理解ができた」が 17 件、「跡地利用の全体像がイメージできた」が 16 件となっている。多くの方が今回のフォーラムでの講演内容に共感したことがうかがえる。



３）普天間飛行場の跡地利用に関するフオーラムの今後のテーマ

◆　今後のテーマは、「公共交通機関や道路の計画」がトップ

県民フォーラムを今後も継続的に開催する場合、『普天間飛行場の跡地利用に関してどのようなテーマを取り上げたらよいか』との問いについては、「公共交通機関（鉄道・バス等）や道路、歩行者道路等をどのように計画するか」が 32 件と最も多く、次いで「普天間にはどのような産業や都市機能をもってきたらよいか」25 件、「跡地整備と並行して周辺市街地を再整備し環境改善するためにはどうしたらよいか」24 件となっている。



４）自由意見について

自由意見では、以下のような意見が寄せられた。

①　フォーラムの感想・要望

岸井氏の基調講演については、わかりやすかった、現在の状況や目指す方向性が分かり、大変参考になったという意見があった。

今後のフォーラムについて、希望するテーマは設問２のとおりであるが、展示方法の改善要望や参加者が少ないので開催案内等を工夫すべきであるという意見が寄せられた。

②　今後のまちづくりに対する意見

跡地のまちづくりに対する意見としては、沖縄らしいオリジナリティあふれるまちづくりを求める意見、地形や自然といった土地の特性を生かしたまちづくりを望む意見があった。また、日本、アジアの中での宜野湾の役割に関する意見も少なくなかった。

自由意見のリスト

1. 本フォーラムの感想

① フォーラム全般

住所	職業	意見・要望
宜野湾市	無職	大変よいフォーラムでした。度々この様な会を催してほしいです。
無回答	無回答	稲田先生の時代を先取りした考え方に共感を覚えた。沖縄の個性、宜野湾の個性を大事にした街づくりの基本的考えを聞かせる感じがする。
那覇市	自営業	基調講演の岸井先生の話はとても理解しやすかった。現在の状況や今後どう取り組んでゆくべきかについて再考させられた。又、地主会をはじめこれまでの実績以上に、宜野湾市のみならず沖縄の将来について、皆様の努力に期待したい。今後は県民としての揺るがない合意策定と行動主体の育成についても、継続的に本フォーラムを開催してほしい。そして、その活動を県内外、国外へ情報発信してほしい。すすめ、普天間！
浦添市	その他	・岸井先生のご講話は大変わかりやすかったです。 ・研究拠点にするアイデアは面白いと思います。世界の有名大学（院）の分校を集積して沖縄で世界の知識が学べると良いと思います。 ・会場はイスだけでなく、テーブルもあると助かります。 ・貴重なフォーラムをご提供いただき誠にありがとうございました。
宜野湾市	無職	初参加でしたが今後も継続してフォーラム開催を望みます。
那覇市	その他	基地跡地利用があまりに現実的で、那覇新都心に近いものができる気がする。がっかりである。沖縄の将来を形にする、夢や元気を作る計画であってほしい。委員の先生方は、実務を知らない先生方ではないか。教科書通りの街づくりの話であった。コンペは何だったのか？コンペのそれぞれの説明を聞きたい。

② 今後のフォーラムへの要望等

住所	職業	意見・要望
豊見城市	会社員	・専門的なワンテーマで深掘りするもの、今回のような全体的なもの、いずれも開催が必要です。 ・地主や周辺市街地の人々も交えて、普天間基地跡地を生かし、周辺地域をどう良くしていくかを考えるイベントには特に強い関心があります。
那覇市	無職	たいへん努力してくださっていることは良く理解できます。専門的なことは先生方にお願いして一般市民が、かんたんにわかりやすく発表を考えてはどうですか？例えば「P.D.C.A.」のサイクルを利用してまとめてはどうですか？今の状況ではわかりにくいですね！
那覇市	その他	日曜開催にもかかわらず、参加者が少ないのはもったいないので、次回の大会は 10 回を数える節目ともなりますから広報についてより工夫して参加者増に取り組んで欲しい。
宜野湾市	無職	総花的でまとまりがないような印象だった。焦点をしぼって欲しい。
うるま市	学生	跡地利用の全体像がよく理解できました。この中間取りまとめを実現する前に、防災についても、さらに議論する必要があると思います。人が生活する空間ができるということは消防が守るべき空間も増えるということだと考えます。
那覇市	学生	表にあったパネルの内容の資料などもいただきたかったです。
那覇市	会社員	時間がもう少し欲しい感じがしました。

住所	職業	意見・要望
那覇市	その他	ー昨年に沖縄に引っ越してきた人間です。パネリストの先生方の説明により、具体的な期間（人口ボーナスなど）がわかったのと初めて伺う話も多く、ほとんどわからなかった跡地利用イメージに形が出来てきました。もっと呼びかけはできるのでしょうか。県民の知人たちにこのフォーラムを伝えたら「全然知らない」「参加したい」と口をそろえていました。大きく呼びかけ、建設的な議論形成を助けるべきだと思います。ただ県の職員の方と宜野湾市職員の方のプレゼンテーションは投げやりで伝わりにくい印象を受けました。
浦添市	自営業	1、跡地利用構想は 20 年繰返し（広域計画上からやむをえないが）ているが普天間の位置付けがはっきりしない。 2、国内都市づくりの成功事例は、20 年続いて成功しているとは思えない。したがって都市間競争、地域間競争は避けるに越したことはないが、返還年の差からみると先行勝も可。 3、オンリーワンは大事ですが、掛け声ばかりで行動計画が伴っていない。 4、地形地質を考慮した計画図がない（県コンペ入選作）

2. 跡地利用に対する意見

今後のまちづくり全般について

住所	職業	意見・要望
那覇市	会社員	「跡地」「全て金太郎」「オリジナル都市とは？」「跡地関係者は保守的」「経済的要です」「地主さんにとって有益」「ダイナミックというが、”ひずみ”が生じる」
宜野湾市	無職	主催者挨拶として上原副知事が普天間跡地には沖縄のセントラルパークとして 300ha の大規模公園を造っても良いのではという話も有り、嘉手納以南の 6 返還施設を有機的に結びつけて各跡地が独自的な魅力を持った跡地開発を行う事が重要だと感じる。普天間跡地の仮称「普天間公園」は 100ha 以上の規模となっているが思い切って 200ha 規模を目指したら良いと思う。
宜野湾市	主婦	跡地利用の全体像が素晴らしくまとめられ、楽しみであるが早急に返還できるよう頑張ってほしい。跡地利用に関しては県益、国益を兼ねた経済効果を考えてほしい。また、教育施設の充実をし、そのための環境づくり、健康的な構想のしくみをつくってほしいと思う。人々が集う「憩いの場」
宜野湾市	会社員	大山の田イモ畑をどうにか公園に残せないでしょうか。周りの小中学校に体験農業、湧泉をコースにいれた散策観光などのとりくみ。周りの自治会、老人会、団体とのれんけい等。
那覇市	無職	わかりやすい説明でした。跡地利用は住みやすい環境と新しい産業又は何かを発信する基地にしてはどうかと思っています。抽象的ですがわくわくさせるような都市になればいいなぁと漠然と思っています。車ではなく、鉄道など（モノレール、地下鉄など）でつながる方が土地が有効に使えるのではないだろうか。
読谷村	自営業	武器による防衛から外交力による防衛、日本外交力の基礎作りの場、平和外交の発信基地にしていただきたい。民間外交の出入口、留学生の受け入れ、JICA海外青年協力隊、語学教育センター、日本の防衛の戦略としてアジアのジュネーブ
那覇市	会社員	地下水と洞穴などの地形は絶対条件であり、この特性を生かすべき。都市の活性化＝人口を増やす計画＝魅力＝価値。あまり理想を追わなくても良いから早く住めるようにしてほしい。徐々に成長させれば良い。県内の土地利用格差が心配。

住所	職業	意見・要望
那覇市	その他	現在並行して進められている各跡地利用計画策定状況について、概でよいから説明を聞く機会があると全体からの視点で普天間の利用を考える上で大いに参考になるのでは。つまり…特徴を生かした個性的なまちづくりを考えるコト。
うるま市	会社員	緑を 50%に増やし、水場を全体の 10%は欲しい。(医療、観光に供する)沖縄の水不足の現状をふまえ、中水道の利用を促進されたい。宜野湾市には EM の発明者比嘉教授が居住しており、様々な分野の技術的サゼッションを受けるとよい。
那覇市	会社員	調査だけではなく、FS的に大山地区をモデル地区として、宜野湾市構造改善モデル事業等を創出し、区画整理事業ではなく、観光、農業、小売商工業も包含し、北部振興策事業のような新しいモデル事業をつくって実施してほしい。
那覇市	会社員	計画についてはもっとスピード感を持って進めていくべきと思う。返還後〇〇年までにどうするとかの具体的な計画も時間軸を考慮した計画を策定すべき時期だと思います。
西原町	会社員	・跡地利用計画が自然環境に配慮して進めているので安心した。 ・返還時期が明確でないためか、出席者が少ない。